

いちはら福祉ネットの は 一 と 通 信

2020. 1. 25発行
VOL.53

発行者 中核地域生活支援センター いちはら福祉ネット(千葉県委託事業)
〒290-0074 千葉県市原市東国分寺台3-10-15
TEL 0436-23-5300 FAX 0436-23-5225
ホームページ http://park22.wakwak.com/~ichihara_f.net/
メールアドレス ichihara_f.net@bh.wakwak.com



年4回発行(4,000部)



『医療的ケア児』を考える②



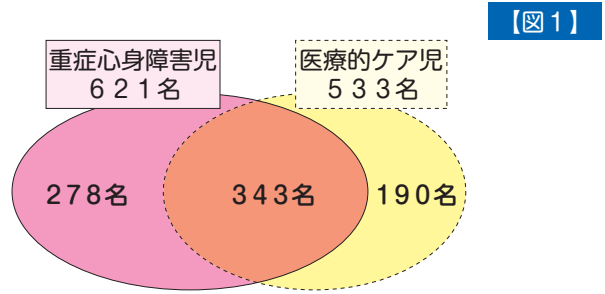
～医療的ケア児を支える相談支援専門員の活動～

全国で18,272人、千葉県では758人(いずれも推計)。何の人数を表す数字でしょうか?これは、平成29年に行われた厚生労働省の調査で示された、医療的ケア児^{※1}の人数です。

近年、新生児医療の進歩に伴い、医療的ケアを必要とする子どもが増加しています。それを受け、地方公共団体においても、医療的ケア児が適切な支援を受けられるよう様々な取り組みの方向性が議論されています。千葉県では昨年度「重症心身障害児者」及び「医療的ケア児者」の実態調査が行われました。

昨年7月発刊のは一通信(Vol.47)でも医療的ケア児の問題を取り上げ、家族の想いを中心に掲載しましたが、今回は、県が行った実態調査の結果を踏まえ、医療的ケア児を取り巻く環境と、その支援に携わる相談支援専門員の活動をご紹介します。

千葉県が行った重症心身障害児者及び医療的ケア児者実態調査報告書によると、千葉県内で生活している重症心身障害児^{※2}ではない医療的ケア児は190人、重症心身障害で医療的ケアの必要がある児343人、医療的ケアの必要がない重症心身障害児は278人が生活しています【図1】。^{※3}



【図1】

生活拠点別に見ると【図2】のようになっています。多くの方が在宅生活を送っています。

それでは、医療的ケアが必要な子どもたちには、どのような人が支援をしているのでしょうか?今回は支援機関の一つである、千葉リハビリテーションセンターの相談支援専門員の方にお話を伺ってきました。

【図2】

	人数	在宅	施設	病院
重症心身障害児ではない医療的ケア児	190人	166人 (87.4%)	11人 (5.8%)	13人 (6.8%)
医療的ケアの必要がある重症心身障害児	343人	265人 (77.3%)	65人 (19.0%)	13人 (3.7%)
医療的ケアの必要がない重症心身障害児	278人	251人 (90.3%)	27人 (9.7%)	0人 (0%)

※1：医療的ケア児…生活をする中で日常的に酸素吸入や経管栄養などの医療的ケアが必要な子どものこと。重症心身障害児には、医療的ケア児が多く含まれる。
 ※2：重症心身障害児…重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態にある子どものこと。
 ※3：今回実態調査におけるアンケート回収率は、重症心身障害児者で約8割、医療的ケア児で約7割であったため、実際的人数は今回示した数字よりも多いことが予測されます。

Q 相談支援専門員とはどんな役割の人なのでしょうか？

A 相談支援専門員は、医療的ケア児に限らず、障害のある人が自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、障害福祉サービスなどの利用計画の作成や地域生活への移行・定着に向けた支援など、障害のある人の全般的な相談支援を行っています。

Q 医療的ケア児への支援とはどのようなものなのでしょうか？

A 医療的ケアを行いながら暮らす子どもたちや家族には、医療分野はもちろん、福祉・保健・教育など、さまざまな面からの支援が必要となります。

しかし、千葉県が行った重症心身障害児者及び医療的ケア児者実態調査報告書では、在宅生活で利用できていないサービスに、保育園や幼稚園での障害児保育・放課後等デイサービス・レスパイト入院（一時的な介護休息のための入院）・施設での短期入所・訪問リハビリなどが挙げられ、福祉分野に限らず教育・医療の分野においても課題が大きいことが明らかになっています。

また、『相談支援専門員がついている割合』の項目では、重症心身障害児ではない医療的ケア児で50%、重症心身障害で医療的ケアの必要がある児では74%、医療的ケアの必要がない重症心身障害児は72%となっており、多くのお子さんに相談支援専門員がついていない現状がうかがえる結果となりました。

私たち千葉リハビリテーションセンターでは、お子さんとご家族が安心して生活が送れるよう、ご希望や困りごとをうかがいながら解決におけた支援をご家族と一緒に考えています。

また、医療的ケアが必要なお子さんの場合、お子さんのライフステージによって必要な支援が異なり、関わる人たちも短期間で変わるため、相談支援専門員はさまざまな専門職の方たちとの連携が必須です。

例えば、初めて病院からご自宅に退院される場面では、病院の生活と実際に生活する環境が違うため、親御さんもどのように生活していけばいいかイメージが持てないことが多いと思います。そのため、主治医や医療ソーシャルワーカーなどと一緒にご家族とお子さんが生活していくためにどのような支援が必要なのかを検討します。具体的には、福祉用具や医療機器の導入サポート、訪問看護や訪問リハ、障害福祉サービスの利用調整などを行います。生活が落ち着いてくると、お子さんの発達に関する相談や親御さんのレスパイトなど、実際に生活する中で直面する困りごとについての相談が増え、就学前・就学時には保育園・幼稚園・学校の受け入れなど、お子さんの成長に応じ相談内容も変化していきます。

また、住んでいる地域によって使える資源が違う現状もあり、調整そのものがうまくいかないことがあります。地域の課題として、地域での協議の場に積極的に提議をしていきたいと考えています。

どのような支援が必要か、どのような人たちと協力すればいいか、ひとりひとりに合わせたオーダーメイドの支援プランを立てることが必要だと考えています。

さいごに

医療的ケア児はさまざまな支援からこぼれ落ちてしまっている現状にあることは、多くの方が指摘しています。制度の隙間をなくし、行政や福祉、教育や医療といった垣根を越えて誰もが安心して生活ができる地域をつくるための取り組みが今後さらに進んでいくように、私たちも地域の一員として一緒に考えていきたいと思っています。



令和元年度千葉県地域福祉フォーラムシンポジウム 『地域で身近な人を守るために』 ～風水害を経験して～

昨年、県内では台風15号・19号による停電・風害、そして10月25日の大雨による水害により多くの被害が発生しました。

災害時に地域で私たちはどのように感じ、動いたのか。また、災害時要配慮者が感じた課題等を学び、今後の災害に強い地域づくりに活かしていくことが重要です。

本シンポジウムでは風水害での経験をとおりこれからの地域づくりについて考えることを目的とします。詳細はホームページに記載されておりますので、ぜひご参加ください。

【日時】 令和2年2月16日(日)

12:40～16:00(受付・開場12:00～)

【会場】 千葉市生涯学習センター2階ホール

【定員】 300名(先着順) 【参加料】 無料

【申込・問い合わせ先】 千葉県社会福祉協議会

地域福祉推進班〔担当：山宮・窪田〕

TEL:043-245-1102

FAX:043-244-5201

ホームページ:

<http://www.chibakenshakyo.com/>

千葉県社協
QRコードは
こちら



いちほら パラスポーツフェスティバル 2020

いちほらパラスポーツフェスティバルは、障がいのある方もない方も、パラリンピック競技等を体験してもらい、世代やハンディキャップを超えた交流の場を設けることで、地域共生社会を促進する取り組みとして実施されます。

最大24チームが競うボッチャ大会やフライングディスクを使った的当て体験といった、障がい者スポーツを間近で楽しめるフェスとなっております。特にボッチャの手に汗握る頭脳戦は必見です！是非、足を運んでみて下さい。

【日時】 令和2年3月14日(土) 10時～15時

【会場】 帝京平成大学千葉キャンパス体育館

【対象】 市原市に在住・在学・在勤の方

【入場】 無料 【申込】 不要。直接会場へ

(※ボッチャ大会参加には申し込み要：
2月25日(火) 締切)

【申込・問い合わせ先】

市原市障がい者支援課

TEL:0436-23-9815



「障害者グループホームってどんな住居なの？」④

第4回目はサテライト型住居を紹介します。このタイプは、将来的に一人暮らしを目指したいという入居者のニーズに応じて、平成26年4月から開始されました。

4、5人程が生活している本体住居のグループホームから交通機関等を使い、20分以内で移動可能な範囲のアパートやマンションの一室に設置されています。距離は離れますが、世話人・生活支援員が定期的に訪問してくれるため、生活での悩み



を相談したり、掃除・洗濯・調理などが上手く出来ない時には、必要な支援が受けられます。ただし、他の制度と違う点は利用期限が原則3年間と決まっており、その間に一般住宅等へ移行出来るように準備する必要があります。

一人暮らしに向けて、自分自身が必要なことを具体的に考えて生活を組み立てられるのが、サテライト型住居の特徴です。

(写真協力：社会福祉法人あひるの会

あかねホーム鷺沼サテライト)



旬の食材を使ったヘルシーメニュー

免疫力アップで風邪予防

かぼちゃのスイートサラダ

(1人分：133Kcal)

材料(4人分)

かぼちゃ 240g、むき枝豆 24g、レーズン 20g、カッテージチーズ 48g、マヨネーズ 12g、はちみつ 12g、塩 1.2g

作り方…① かぼちゃを一口大に切り、蒸し器で蒸し、熱いうちに潰し冷ます。

② レーズンはぬるま湯で戻し、軽く水気を絞る。

③ むき枝豆は茹でて、水気をよくきる。

④ 塩以外の材料を混ぜ合わせる。

⑤ 最後に塩で味を調べて完成。

栄養士さんからのおすすめの一言……

「かぼちゃのビタミンCには免疫力をアップさせる作用があります。白血球の働きをサポートし、風邪などのウィルスから体を守ります。βカロテンはビタミンAに変わり、ビタミンCと一緒に免疫力を高めます。」

今回のレシピは、社会福祉法人 九曜会 千原厚生園 栄養士 山口英樹様に提供して頂きました。

【会議等出席・開催状況

R1/10/1～12/31】

10/ 7 成年後見利用促進意見交換会

10/8・10/10・10/29・11/14・12/3・12/26

市原市障がい者支援協議会 全体会・権利擁護部会・
運営会議・相談支援部会

10/8・11/12・12/10

市原市要保護児童対策地域協議会 実務者会議

10/8・11/12 加茂地区民生委員児童委員協議会 定例会

10/19・11/16・12/21 ちはら台地区福祉総合相談

10/15・11/12・12/17 青葉台地区福祉総合相談

10/21・12/16 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケア
システム構築推進事業 市原圏域実務者会議

10/23・11/21・11/26・12/24 中核地域生活支援センター
連絡協議会 定例会・研修部会

10/24 市原市認知症対策連絡協議会 例会

10/24 特別支援学校特別支援教育コーディネーター連絡協議会

10/26 第12回市原市精神保健福祉フェスタ

10/28・11/26・12/20 司法と福祉の勉強会

11/ 1 市原市相談機関連絡会

11/ 2 RUN伴2019いちほら

11/17 ちはら台地区福祉のつどい

11/22 DV被害者支援連絡会議

11/28 中核地域生活支援センター連絡調整会議(障害部会)

11/29 市原市相談支援事業所連絡会 銀杏の杜

11/19・12/16 市原地域リハビリテーション広域支援センター
ちーき会

いちほら福祉ネット活動報告

10月から12月にかけて、市原圏域では福祉に関するさまざまなイベントが開催されました。

私たちいちほら福祉ネットは、圏域内外で開催されるイベントに実行委員として企画段階から参加し、関係機関のみならずと協働しながら、福祉の活動や障害・疾患に関しての啓発活動を行っています。

いちほら福祉ネットへの相談件数

(速報値)

令和元年10月～令和元年12月

延相談件数 2,111件(新規78件)

相談件数		対象者	
電話	1,559件	高齢者	208人
訪問	443件	障害者	882人
来所	68件	児童	51人
個別支援会議	41件	その他	970人

令和元年度(4月～12月)

延相談件数 6,046件

編集後記

新しい年がスタートしました。今年は東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。市原市は、県内の全市町村が採火したパラリンピックの聖火が集まり、千葉県最大の聖火となる集合地点となっています。競技はもちろんのことですが、各地で行われるイベントからも目が離せません。(スタッフ一同)